



耳よりな話

N.48

平成 26 年 5 月 21 日発行

(労働・社会保険ニュース)

阿部年金労務管理研究所

阿部 純二 (社会保険労務士)

〒194-0045 東京都町田市南成瀬 5-25-14

Tel 090-1200-1526 Fax 042-722-1526

E-mail: abenenkin@ybb.ne.jp

<http://nenkinsodan.web.fc2.com/>

◎平成 26 年度の年金は・・・

平成 24 年度に公布された「年金機能強化法」により、平成 26 年度に施行される主なものは下記のとおりです。

*年金額

総務省発表の平成 25 年度消費者物価指数は 0.4%の上昇でしたが、特例水準の段階的解消 ▲1%の適用により (注)、年金額は▲0.7%の引き下げとなります。

国民年金 772,800 円 (▲5,700 円)、月額 64,400 円 (▲475 円)

(注) 以前にも説明しましたが、平成 11 年以降消費者物価指数が下落したにも拘わらず年金額を引下げないまま、約12年間にわたり累計で 2.5%をもらい過ぎていたものを段階的に解消するものです。ニュースのコメントのなどで“もらい過ぎていた” 事実は説明しないで、“年金額引下げ” のみを強調するのはフェアではなく誤解を与えます。

*国民年金保険料

月額 15,250 円 (210 円の引き上げ)

*遺族基礎年金の父子家庭への支給

前号「耳寄りな話」N.47 にても説明

*産前産後休業期間中の厚生年金・健康保険料の免除

従来、満 3 歳未満の子を養育するための育児休業等の期間について厚生年金・健康保険料が被保険者、事業主とも免除されていましたが、今回少子化対策の一環として施行されるものです。

【おことわり】

「耳よりな話」にてお知らせする年金等の内容につきましては、平易な文言にてその骨子を説明することを心掛けております。従いまして、法令条文通りの厳密な解釈や例外規定の適

用に拠っては該当しない人もいます。その旨をご理解頂きますよう、更に詳細が必要な方は別途お問い合わせください。

* 既発行の「耳よりな話」は <http://nenkinsodan.web.fc2.com/> をご覧ください。

私の☆☆☆☆☆



美味しいものへの出会いは正に至福のときです。

「美味しいものに出会ったら人にも教え、共有することでその美味しさはさらに美味しくなる」と著名な流行作家が言っています。

また、心のこもった贈物、気の利いた贈物は、贈り主の人柄が偲べれます。

しかし、これら美味しいもの、銘品も一人で発見するには限界があります。

社会でのご経験豊かな方々に、マル秘「私の☆☆☆☆☆」をご紹介します。

今回は 川崎定徳（株）常勤監査役 **川崎 善保**さんから著名な文学作品から「食」についての本や作家、印象深い文章のご紹介を頂きました。

川崎 善保（かわさき よしやす）さんは成蹊大学を卒業後、旧日本火災海上保険に入社、山梨支店副支店長、関連部長等を経て川崎定徳（株）常勤監査役の傍ら、旧川崎財閥の由緒古事、文献の蒐集に尽力し、先祖の偉業を整理しておられます。

（*）川崎財閥…戦前の旧八大財閥（三井、三菱、住友、安田、川崎、古川、大倉、浅野）の一つ。水戸第2代藩主光圀の時代から郷土待遇に取り立てられていた川崎家は、幕末川崎八右衛門の時、水戸藩銭座取締りに任命され藩内流通の「とら銭」鑄造を任された。それを契機として発展し 中核会社「川崎定徳」を設立後、川崎第百銀行（三菱銀行と合併）、常陽銀行、千葉銀行、足利銀行、日本信託銀行、日本火災、第百生命等を支配下においた金融財閥。

「食と文学作品」・・・①

「生きるための食」は豊かな生活と共に嗜好から快樂となって、その欲望は尽きることがありません。

中国、広東では食さないものは『空を飛ぶもので翼のある物は飛行機のほか何でも食べる。地上にある4本足は机のほか何でも食べる。2本足は両親のほか何でも食べる』というスローガンがある（あった？）話は、皆さんがよくご存知のところですよ。・・・『両親以外』というのがなんとも不気味ですが・・・

現代の日本では、わが民族特有の微妙な舌感、食感が飽食に輪をかけて、料理についてのテレビや雑誌記事で溢れ返っています。

テレビでは「ウマイ、ウマイ・・・」一点張りの食番組（制作費がもっとも低廉でしょうから）や、カリスマシェフなるものが指南する画面の洪水です。

勘違いした俳優が料理本まで出す始末です。

暑さ、寒さの中、長時間かけて有名店に長蛇の列を見ると、食べるために生きている比重が少し重い面々かな？と思うのです。

テレビの食番組を全て否定する気は毛頭ありませんし、小生もツタナイ料理作りを趣味の一つとしております。

ただし、テレビ料理を忠実に作っても、昔からの惣菜物を除いて殆どグッドと言えるものはありません。

タレントを起用すれば視聴率が上がるとする経済的合理性（儲かる）重視の番組作りが圧倒的だからではないでしょうか？

一方、文壇の世界では『食と女が書けたら一人前だ』という言葉があるそうです。

たしかに名作家の描写は、たとえその作品が食をメインテーマとしていなくても食材や食事のシーンは非常に印象深く想像をかきたてます。

例えば、漱石の「草枕」の中で羊羹と洋菓子を対比する文面がほんの少し出てきますが、このあたりなどは流石のもので丸谷才一風に言えば「流麗にして清楚」な文章です。

そこで、小生の勝手な好みで食についての文章から、作家のオールスターを打順で挙げてみました。無論、選手起用や打順などはおおいに異論があろうと思いますが、読み流して頂ければ幸いですし、興味ある著作を読んで頂く参考になればありがたいと思います。

取り上げた作家の時代など、まちまちで、作品も代表的な一部のものだけです。

又、「食」の随筆と、「食」をテーマとしていない作品の一節が混在しています。

次回、作家打順を披露します。



1867年、15代将軍慶喜の大政奉還により260余年続いた徳川政権は終わりました。

その後の徳川家や御三家はどうなったのでしょうか。

大政奉還後は一般大名となり、明治新政府では爵位（公爵）を受けましたが、第二次大戦後は一般人となりました。

現在の徳川宗家第十八代は徳川 恒孝（とくがわ つねなり）氏が当主となっており、財団法人徳川記念財団理事長として徳川家の遺品などの管理保存に努めておられます。

同氏は旧会津藩主松平容保のひ孫に当たり、徳川宗家の養子となって第十八代当主となりました。世が世であればまさに“上様”です。若い頃は皇居のお堀の外側に面する日本郵船に勤務し、米国駐在など歴任して副社長になりました。徳川政権が続いていたら皇居の内側に住んでいたことになりそうですが、実際のお気持ちどのようなもののでしょうか。

因みに加賀100万石の旧藩主前田家の当主も日本郵船に勤務していたそうです。徳川さんも前田さんも若い頃同じ部署に所属し机を並べていたことがあったそうです。当時の上司は殊のほか喜び、「徳川、前田を同時に部下に持つのは、関白豊臣秀吉以来のことである」と大層

ご満悦であったそうです。(「江戸の遺伝子」PHP研究所)

酒の席で徳川さん、前田さんからお酌をしてもらおうと豊臣秀吉になった気分ですりゃー良い気持ちだったでしょうね。

徳川宗家には「徳川・松平一門の会」、「旧幕臣子孫の会」があるそうです。みなさんの家系図をもう一度調べ直してみて、入会されてはいかががでしょうか。



第一生命が毎年「サラリーマン川柳コンクール」を発表しています。

傑作をご披露します。

(本件は第一生命様から転載の承認を得ております)

第十九回 第一生命サラリーマン川柳コンクールより

誰がやる？ この場にいらない 奴がやる	ころんだだるま
打合せ 次回の日時を 決めただけ	会議は踊る
飲みすぎて 駅のホームがマイホーム	どこでもドア
皮下脂肪 マナーモードも 伝わらず	専業主婦
想い人 会わなきゃよかった 同窓会	OLママ